



特集

県内初! Hybrid ERシステム 導入について

平池(紀の川市)

CONTENTS

Topics

- 次世代の手術支援ロボット「da Vinci 5」を導入
- 先天性心疾患患者さんの移行期を支えるWATCHチーム
- 楽天グループ三木浩史氏との先進医療に関する意見交換会および本学学生・教職員向け特別講演を開催しました

Information

- 市民公開講座「一過性の認知・意識障害であるせん妄を知っていますか?」を動画配信
- 「がんと暮らしのミニ相談会」を開催
- 妊娠高血圧腎症とアルツハイマー病の共通点を発見
- 「見えなかった心臓突然死」を見える化

【理念】

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

【基本方針】

1. 患者さんとの信頼関係を大切にし、十分な説明と理解に基づく同意を得て、安全な医療を行います。
2. 高度で先進的な医療の研究をすすめ、その成果を反映した医療を行います。
3. 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
4. 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲(はなおかせいしゅう)が全身麻酔薬として用いた植物「曼荼羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

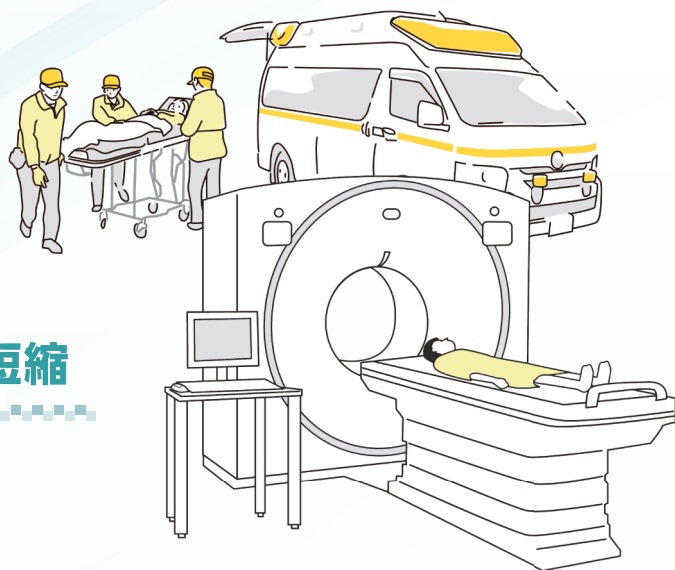
県内初! Hybrid ERシステム 導入について

和歌山県立医科大学附属病院
高度救命救急センター
センター長 井上 茂亮

救命率に関わる"時間"を大幅に短縮

当院高度救命救急センターでは、救急で運ばれてくる重症の患者さんに対し、より早く、より安全で質の高い治療を提供することを目的として、「Hybrid ER (ハイブリッドER)」という新しい医療システムを導入しました。

これまでの救急医療では、患者さんが搬送された後、まず救急処置を行い、その後にCT検査室や手術室へ移動して、検査や治療を進める必要がありました。しかし、こうした移動には一定の時間がかかり、その間に状態が変化してしまう可能性もあります。特に、大きなけがや大量の出血、心臓や血管の病気など、命に関わる緊急性の高い病態では、「いかに早く診断し、治療を開始できるか」が非常に重要です。



Hybrid ERでは、CT検査装置や血管内治療の機器、さらに手術を行うための設備を一つの部屋に集約しています。そのため、患者さんを別の場所へ移動させることなく、その場で検査から治療までを一貫して行うことが可能となりました。例えば、到着直後にCT検査を行い、その結果をもとにすぐに止血処置や手術へ移ることができます。このように、時間のロスを最小限に抑えることで、より迅速な対応が可能となり、救命率の向上が期待されています。

● Hybrid ER (ハイブリッドER) とは

緊急を要する超重症患者さんをER初療ベッドから動かさず、**検査→治療をすべて同じ場所**で行える救急医療システムです。



CT 検査

高精度な画像診断を
その場で即座に実施



外科手術

緊急の外科手術を
移動なしで開始

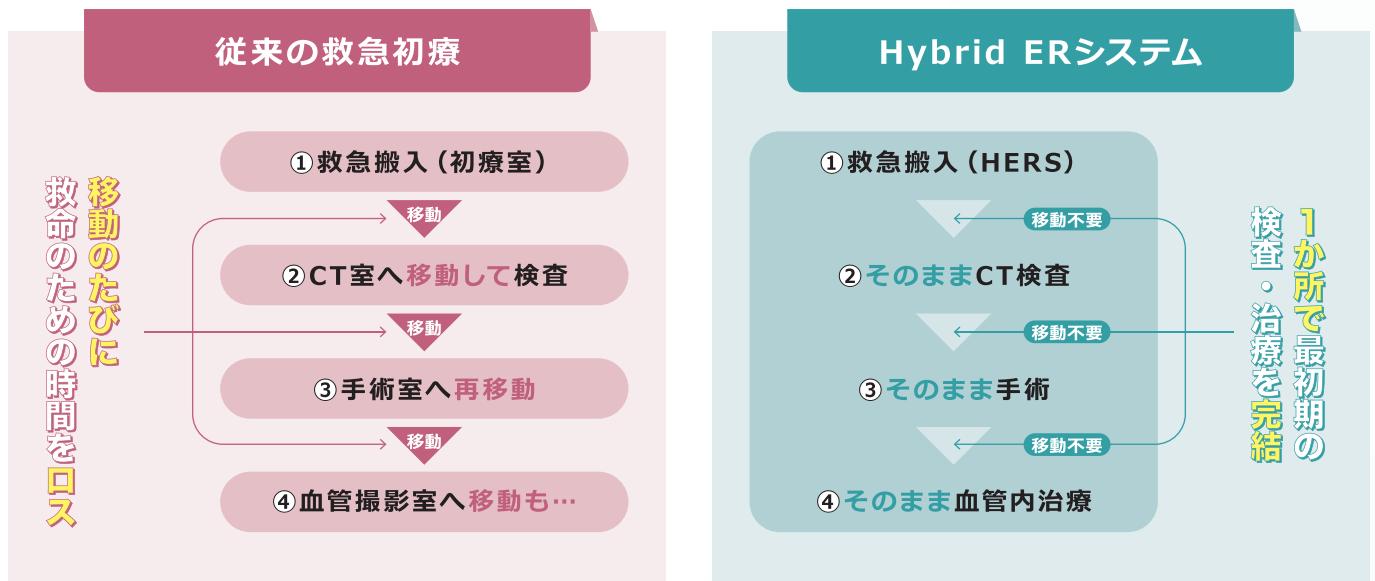


血管内治療

カテーテル治療を
同じ部屋で実施



●「従来の救急初療」と「Hybrid ERシステム」の違い



チーム一体の"One-Stop"で命を救う

また、患者さんを何度も移動させる必要がないことは、体への負担を軽減するという点でも大きな利点です。重症の患者さんにとって、移動そのものが大きなストレスとなることがあります。さらに、移動中には血圧の変動や点滴・チューブのトラブルなどのリスクも伴います。Hybrid ERではこれらのリスクを減らし、より安定した環境で安全に治療を進めることができます。

さらに、このシステムでは、救急医だけでなく、外科医、放射線科医、看護師、臨床工学技士など、多くの

専門スタッフが一つの場所に集まり、患者さんの状態をその場で共有しながら治療方針を決定します。これにより、情報の伝達がスムーズになり、チーム全体で迅速かつ的確な判断を行うことが可能となります。いわば、医療チームが患者さんのそばで一丸となって支える体制が強化されたといえます。

このHybrid ERは、県内で初めて導入された新しい取り組みであり、地域の救急医療のさらなる向上にもつながると期待されています。当院では、この設備を最大限に活用し、重症外傷だけでなく、さまざまな緊急疾患に対しても迅速に対応できる体制を整えてまいります。

今後も、患者さんご家族の皆さまに安心して医療を受けていただけるよう、医療の質と安全性の向上に努めてまいります。Hybrid ERの導入を通じて、「一刻を争う場面でも確実に命を守る医療」の実現を目指してまいります。



県内初!

次世代の手術支援ロボット「da Vinci 5」を導入

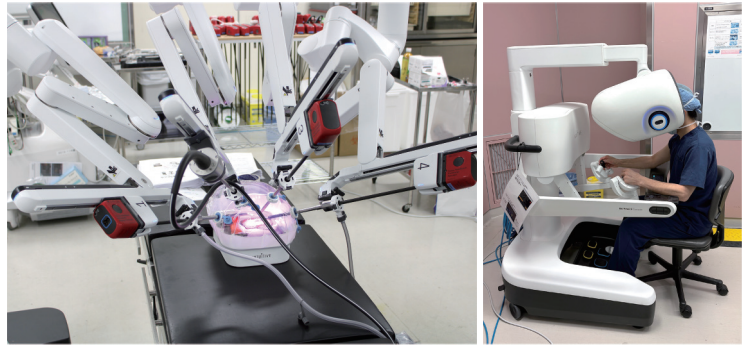
— より精密に、より低侵襲な手術を目指して —

2026年6月、和歌山県内では初となる最新鋭の手術支援ロボット「da Vinci 5 (ダビンチ5)」を2台導入しました。なお、「da Vinci 5の2台運用体制」は国内初となります。

da Vinci 5には、前モデル (da Vinci Xi) から大きく進化した革新的な機能が搭載されており、従来のロボット技術の利点を継承しつつ、最新のテクノロジーによって、これまで以上に「安全」で「精度の高い」手術を患者さんに提供することが可能になります。

当院は2012年度にロボット支援下手術を導入し、これまでの累計実績は約3,100件(2026年3月時点)に及びます。

今後も医師の技術と最新の医療機器を組み合わせ、患者さん一人ひとりに最適で安全かつ質の高い医療を提供してまいります。



✓ ロボット手術がもたらす強み

①フレキシブルな精密操作

従来の内視鏡器具は直進的な動きに制限がありましたが、ロボットの器具には「関節」があり、人間の手首以上の可動域を持っています。
これにより、狭い部位においても、複雑な角度からの縫合や繊細な処置をよりスムーズに行うことができます。

②「手ぶれ補正」による

高い安全性

コンピュータが術者の手の動きを微細に制御し、手ぶれを自動的に補正します。
これにより、安定した精度の高い処置が行えます。

③「3D高精細画像」による

視認性の向上

高倍率のズーム機能と立体的な3D画像により、肉眼や従来の内視鏡では確認しづらかった微細な血管や神経の走行を鮮明に捉えることができます。

✓ da Vinci 5の革新的な新機能

①「触覚」のフィードバック機能 (フォースフィードバック技術)

手術器具が組織に触れる感覚(抵抗感)を術者の操縦席に伝える技術が新たに搭載されました。
これにより、これまでのロボット手術にはなかった「触った感覚」を頼りに、より繊細で体にやさしい操作が可能になりました。

②画像クオリティのさらなる進化

解像度と色再現性が大幅に向上し、従来モデルよりもさらに鮮明に、リアルな色彩で血管や神経を識別できるようになりました。

✓ 主な対象疾患

当院では以下の領域を中心に、ロボット手術を積極的に活用しております。

- 泌尿器科: 前立腺がん、腎がん、膀胱がんなど
- 消化器外科: 胃がん、直腸がん、結腸がんなど
- 婦人科: 子宮体がん、子宮筋腫など
- 胸部外科: 心臓の弁形成、肺がん、縦隔腫瘍など

✓ ロボット手術を受けるメリット

最新のテクノロジーにより、これまで以上に質の高い手術を提供します。

- 合併症リスクの低減: 精密な操作により、温存すべき神経や血管を確実に守ります。
- 出血量の最小化: 緻密な止血操作により、体へのダメージを抑えます。
- 早期の社会復帰: 傷口が小さいため術後の痛みが少なく、早期の退院が可能です。

先天性心疾患患者さんの移行期を支えるWATCHチーム

— 自分らしく暮らし、「親なきあと」に備えるために —

先天性心疾患は、生まれつき心臓に病気がある状態を言います。医療の進歩により、現在では多くの患者さんが成人期を迎えられるようになりました。小児期から成人期へ成長するなかで、医療や生活の支援を少しずつ大人向けに整えていく時期を「移行期」と呼びます。この時期には、小児科から循環器内科へ移るだけでなく、自分の病気を理解し、受診や薬の管理を少しずつ自己管理していくことが大切です。さらに、進学や就労、福祉制度の活用、将来の生活費や住まいなどについても、少しずつ準備を進める必要があります。

このような多くの課題に対しサポート出来るよう、当院では2025年に「先天性心疾患患者の移行期準備と親なきあと対策推進チーム(WATCH)」を設置しました。小児科医師や循環器内科医師の連携にとどまらず、患者さんが成人期以降も安心して暮らしていけるよう、多職種による包括的支援を目指しています。メンバーには、小児科、循環器内科、心臓血管外科の医師をはじめ、看護師、患者支

援センター、医療ソーシャルワーカー、事務職員、県の「難病・こども保健相談支援センター」などが加わり、一丸となって連携しています。

私たちは、患者さんの「自立能力の向上」と、「必要な支援サービスの拡充」を二本柱に掲げ、移行期医療を単なる診療科の変更で終わらせない支援を行います。「親なきあと」にも備えながら、患者さんとご家族が成人期も安心して自分らしく生活できるよう支えてまいります。



▲ WATCHチームのメンバー

楽天グループ三木谷浩史氏との先進医療に関する意見交換会 および 本学学生・教職員向け特別講演を開催しました

2026年4月7日に、三木谷浩史氏(楽天グループ株式会社 代表取締役会長兼社長・Rakuten Medical, Inc. CEO)をお招きし、本学附属病院が2023年に県内で初めて「アルミノックス治療(光免疫療法)」*を実施したことを契機として、大学関係者との意見交換会および講演会を開催しました。

大学関係者との意見交換会では、今後の和歌山県における医療体制の充実、地域医療機関との連携、さらには光免疫療法をはじめとした先進医療の積極的な導入について、活発な意見交換が行われました。

意見交換会に続いて、三木谷氏による講演会「未来への挑戦：和歌山から世界へ」を開催し、本学の学生を中心に会場の収容人数を大きく上回る約270名が聴講しました。講演では、光免疫療法や挑戦し続けることの重要性について、自身の経験も交えながら熱心にお話しいただき、学生の向上心を大いに刺激する、有意義な内容となりました。

*アルミノックス治療(光免疫療法)とは

薬剤と光を使って、がん細胞だけを殺す新たな治療法で、楽天メディカルが研究開発を進めています。正常な細胞へのダメージが少なく、がん細胞だけを破壊する治療です。

2020年9月に国内で承認され、本学附属病院は2023年から治療を開始しています。2026年現在は切除不能な頭頸部がんに対して保険適用されており、今後適応対象がん種の拡大が期待されています。



▲ 意見交換会



▲ 講演会の様子

動画配信

和歌山県立医科大学 がん専門医療人材(がんプロフェSSIONAL)養成プラン

市民公開講座

「一過性の認知・意識障害であるせん妄を知っていますか？」

2026年1月31日(土)に開催した市民公開講座の動画配信を行っています。視聴の申込は不要です。ぜひご視聴ください。

■開催内容

講演①「せん妄ってなに？」

～せん妄と認知症の違い、せん妄の予防・治療について～

和歌山県立医科大学 医学部麻酔科学講座
附属病院腫瘍センター 講師 栗山 俊之

講演②「なんだかいつもと違う? ～みんなで気付く! せん妄と薬のはなし～」

医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック
餅原 弘樹 先生

講演③「せん妄のメカニズムに迫る ～脳内で起きる「嵐」とは～」

和歌山県立医科大学 薬学部医療開発薬学研究室
准教授 山下 哲

■視聴方法

下記URLまたは右のQRコードからご視聴ください。➡

URL:<https://www.youtube.com/watch?v=OgUi3RtWNUk>

申込不要
視聴無料



開催

和歌山県立医科大学 がん専門医療人材(がんプロフェSSIONAL)養成プラン

「がんと暮らしのミニ相談会」～がんとこれからの生活 気になりませんか～

がんのこと、ひとりで抱えていませんか? あなたの「ちょっと聞いてみたい」に専門家が丁寧にお答えします!

がんに関する悩みやこれからの生活について、気軽に相談できる無料イベントを開催します。

がん看護専門看護師が、あなたの不安や疑問に寄り添いながらご相談をお受けします。

仕事やお金のこと、生活への不安、医療や介護のことなどどんな小さなことでも大丈夫です。

医師とも連携した安心のサポート体制で、あなたに合った情報やヒントなどをご提供します。

会場にはパーテーションを設置しますので、周囲を気にせず安心してご相談いただけます。

さらに、ミニレクチャーや乳がん模型による自己触診コーナーなどの体験コーナーもご用意。がんの痛みやケアについて、わかりやすく学べる貴重な機会です。ぜひご参加ください。

予約不要
参加無料

■開催日時 2026年10月18日(日) 11:00～15:00

■現地会場 イオンモール和歌山 3階(コスコクレープカフェ前)

■開催内容

- ・緩和ケア医師による「がんの痛みのこと」ミニレクチャー
- ・がんクイズパネル展示(賞品あり!)
- ・乳がん自己触診体験(乳がん模型での体験)
- ・見た目の変化、ちょっと楽にするコツ体験(ウィッグ・まゆげ・爪のお手入れ)
- ・がん医療の情報紹介(仕事との両立について)
- ・在宅医療の実際(在宅医療連携アプリ「くろしおNET」の体験)



※本相談会は診断や治療を目的としたものではなく、一般的な情報提供や助言を行う場です。最終的な治療方針は、必ず主治医とご相談ください。

妊娠高血圧腎症とアルツハイマー病の共通点を発見

アミロイドβ (Aβ) は主に脳内で作られるペプチド(小さなタンパク質)です。Aβ同士がくっつくときアミロイドと呼ばれるナイロン様の異常タンパク質となり、これが脳に溜まるとアルツハイマー病に特徴的な「老人斑」と呼ばれる染みになります。一方、妊娠高血圧腎症の主な症状は母体側の高血圧とタンパク尿です。母児の健康・生命を脅かす危険な疾患ですが、その原因はよく分かっていません。

ヒト胎盤の栄養膜細胞は、母児間の栄養・ガス交換や妊娠維持に必要なホルモンの分泌といった胎盤の重要な機能を担う細胞です。今回、生化学講座と産科・婦人科学講座の共同研究グループが実施した研究により、ヒト胎盤の栄養膜細胞が実際にAβを作ること、妊娠高血圧腎症の方の胎盤にはアルツハイマー病の脳と同じくAβアミロイドが溜まっていることが分かりました。また、ヒト栄養膜細胞モデルやヒト胎盤から単離した栄養膜細胞

にAβアミロイドを添加したところ、妊娠の維持に不可欠なホルモンの分泌が妨げられました。したがって、Aβアミロイドが胎盤に溜まることで、胎盤の細胞がうまく働けなくなることが分かりました。

妊娠高血圧腎症の確実な治療は妊娠の終結しかないため、胎盤のAβアミロイドを標的とした新しい治療戦略への発展が期待されます。



▲ 西岡助教(左)、岩橋講師(中)、西辻准教授(右)

「見えなかった心臓突然死」を見える化

— 分子マーカーで死因判断が進化 —

本研究は、これまで原因がはっきりしにくかった「心臓突然死」を、分子の変化から解き明かそうとする試みです。心臓突然死とは、特に大きな病気がないように見えた人が、突然亡くなってしまう現象で、その多くは心臓の働きが急に止まることによって起こります。しかし、発症から死亡までの時間が非常に短い場合、心臓に目に見える変化がほとんど残らず、解剖を行ってもはっきりした原因が分からないことが少なくありませんでした。

そこで私たち法医学講座は、「形を見る」のではなく「分子を見る」という新しい視点で研究を進めました。人の体は強いストレスを受けると、細胞や血液の中にその痕跡が分子として残ります。この特徴を利用すれば、見た目では分からない異常も捉えられるのではないかと考えました。

具体的には、心臓の細胞にどれだけダメージがあったかを示す「8-OHdG」と、心臓にどれだけ負担がかかっていたかを示す「NT-proBNP」という2つの物質に注目しました。法医学解剖の症例を調べたところ、心臓突然死のケースでは、これらの値がいずれも高くなっていることが分かりました。つまり、亡くなる直前に心臓が強いストレスを受けていたことが、分子レベルで確認できたのです。

この研究の重要な点は、これまで「原因不明」とされてきたケースに対して、新たな手がかりを与えられる可能性があることです。分子マーカーを用いることで、「なぜ亡くなったのか」をより客観的に説明できるようになり、診断の精度向上につながります。また、突然死の原因が明らかになることは、ご遺族にとっても大きな意味を持ちます。

今後はさらに多くの症例を調べ、この方法の信頼性を高めるとともに、実際の医療や法医学の現場で活用できるよう研究を進めていく予定です。本研究は、見えなかった死因を「見える化」する新しい一歩として、社会的にも重要な意義を持つと考えられます。



▲ 國中特別研究員(左)、近藤教授(右)

和歌山県立医科大学の
最新の研究内容をより詳しく知りたい方は
公式HPの広報ページをご覧ください。



和歌山県立医科大学 広報 検索

掲 示 板

予約センター からの お知らせ

～診察予約のご案内(初めて受診される方へ)～

当院の外来受診は、原則として「診療情報提供書(紹介状)」をお持ちの方による「予約制」とさせていただきます。ご予約は、かかりつけの医療機関等からFAXでお申し込みください。患者さんからの電話による初診予約はお受けできませんので、ご了承ください。

■ ご予約の流れ

- ① かかりつけの医療機関等から当院所定の「紹介予約申込書」と「診療情報提供書(紹介状)」を予約センターあてにFAX送信してください。診療情報提供書がすぐにご用意できない場合は、予約申込日(かかりつけの医療機関等で予約を行った日)から概ね3日までを目途にFAX送信をお願いします。
- ② 予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信します。夜間・休日の場合は翌平日の対応になります。
- ③ 予約当日は、予約票・診療情報提供書(紹介状)・画像データ(必要時)・マイナンバーカード(保険証)・診察券(受診歴のある方)・各種医療券・常用薬・お薬手帳を持参のうえ、各診療科外来受付に直接お越しください。
- ④ 予約日の変更は、当院予約センターにご本人からのお電話で受け付けさせていただきます。ただし、検査予約の変更については、当院の代表番号(073-447-2300)から各診療科外来へ平日15:00～17:00におかけください。

予約センター(患者支援センター)

FAX(医療機関専用)・・・073-441-0805
【受付時間】月・火・水・金…9:00～19:00
 木……………9:00～17:00
 (土・日・祝日・年末年始を除く)

TEL(患者さんから予約変更専用)・・・073-441-0489
【受付時間】月～金…8:30～16:00(土・日・祝日・年末年始を除く)
 ※「痔がんドック」及び「がん検診後の2次検査」の予約については、
 上記予約変更専用番号にてご予約が可能です。



肝臓市民公開講座のお知らせ

「肝臓市民公開講座～健康の肝、肝臓を知ろう～」を開催します。

肝がんや脂肪肝について、専門医や栄養士がわかりやすく解説します。また、ゲストとして伍代夏子氏をお迎えし、講演終了後には参加者の皆さま全員で楽しめるイベントも予定しています。肝臓の健康についてご興味のある方は、ぜひご参加ください。

【講演内容】

- ①血液検査からわかる、あなたの肝臓 ②肝がん予防の第一歩、脂肪肝を放置しない
 ③知っておきたい! 脂肪肝のための正しい食事習慣 ④定期検査で肝がんを早期発見

【日時】2026年8月2日(日)
 13:30～16:00(開場12:30)

【会場】和歌山県立医科大学 講堂

【お問い合わせ】和歌山県立医科大学 消化器内科
 TEL.073-447-2300(代表)

※詳細は右のQRコードからご確認ください。

申込不要
参加無料



患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

1. 個人として尊厳と人格が尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
2. 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
3. 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
4. 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
5. 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

1. 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
2. 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
3. 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
4. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
5. 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願いいたします。
6. 医師、看護職員、病院職員に対する謝礼、贈答品は固くお断りしています。

和歌山県立医科大学附属病院広報誌「まんだらげ」(vol.77)

2026年7月発行 発行/和歌山県立医科大学附属病院
 〒641-8510 和歌山市紀三井寺811-1

TEL 073-447-2300
FAX 073-441-0706

ホームページアドレス
<https://www.wakayama-med.ac.jp/hospital>
 「まんだらげ」はホームページからもご覧いただけます。



— 外来受付時間 —

- 受付時間:午前8時50分～午前11時30分
 - 再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
 - 休診日:土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。

次号発行は
2026年
10月です。